

紅大貿易株式会社 BENIDAI Trading Co., Ltd.
<http://www.benidai.co.jp/>

種子販売部 吉原敬嗣
yoshihara@benidai.co.jp

One seed can change the future.
一粒の種子が未来をも変え得る。



1. 倉田益二郎先生と紅大

当社、紅大貿易株式会社は2010年2月現在、法面施工会社さんやゴルフ場さんなどの多くのお客様から、“紅大(ベニダイ)”と呼ばれ、緑化用の種子をご提供しております。

その歴史は長く、社名が呼称と同じく「株式会社紅大」であった頃からです。私などが生まれる以前であるばかりか、「緑化工」という言葉が生まれる以前から、林野庁・北海道庁・地方営林署などへの種子を納入していた実績があります。その実績により、東京農業大学 緑化学研究室(現在の治山・緑化学研究室)の教授であった倉田益二郎先生から外来草本類の輸入を依頼され、当社の種子販売部は本格的に法面緑化向け種子の取扱いを始めました。「緑化工」という言葉は1951年12月に倉田益二郎先生が使い始めたのが最初となりますが、その時点で既に、アメリカで「奇跡の草」と喝采を浴びていたケンタッキー31 フェスクを商用として販売し始めていたということは、社員としても非常に驚くべきことです(販売は1950年10月より)。ちなみに急速緑化時代の当社の標語は「良い種子・良い草・良い法面」でした。

いずれにしても倉田先生との関わりから本格始動した当社の種子販売部であり、その結果、他の種苗会社とは違い法面緑化向けの種子に重きを置く種子販売業者になっています(現に野菜の種子については全く取扱いがない)。

2. “貿易”と“交易”

貿易の2文字が社名に入る当社では、貿易は交易であり、交易とは、人と人をつなぐものとしています(社長談)。実際にものをやりとりし、活用するのは人。その時代の需要に対して、答えていくのが当社の仕事と考えています。

外来草本類を多く納入してきた当社ですが、その当時の需要に答えた結果でした。実際のところ、当時、法面緑化向け種子を総合的に扱い始めていた当社では、日本産の種子の取扱いもしていましたが、その需要は外来草本類に到底及ばない納入数量だったのです。これは当時、法面向けのガイドブックとしては先駆けとなる、当社発行で倉田先生が書かれた“緑化工ガイドブック”においても記述があります。また、倉田先生も施工条件によっては郷土種を使用すべきとしています。当社では需要に対して積極的に対応していきますので、未だに多くの需要がある外来草本類はもちろん、日本産種子についても取扱いをしています。

3. 現在の紅大、今後の紅大

近年、緑化用の種子は以前と比較し、種類が多くなってきています。その結果、品質管理についても様々な対応が必要となってきました。保管方法では、低温であることは品質保持に重要ですが、湿度については乾燥状態が好ましい場合や高湿状態が好ましい場合などに分かれます。当社では低温倉庫はもちろん、湿度90%以上となる低温高湿庫を備え、種子に適する保管方法をとっています。また、品質管理室では品質の目安となる発芽試験を、国際種子検査規定に準じて種子にあわせた頻度で行っています。

また、最近需要の出てきた分野では、“貿易会社”という利点を活かし、種子だけでなく緑化に使用する資材などの輸入代行なども手がけています。

そんな当社には、つながりの深い倉田先生と同じ東京農大治山・緑化学研究室出身者が2名。私も含めた2名は法面と種子を通じて業界につながって行きたいと思っています。



会社概要・連絡先

商号	紅大貿易株式会社
所在地	東京都千代田区内神田3丁目2番12号 クリハラビル
設立	1955年(昭和30年)7月1日
代表者	代表取締役社長 木村直人
資本金	4,500万円
営業品目 (種子販売部)	・各種緑化用種子の販売 ・種子の保管・管理 ・緑化用資材の販売 ・外国産緑化用資材の輸入・輸入代行
連絡先	種子販売部 Tel : 03-3256-0551 Fax : 03-3254-7126 E-mail : seed@benidai.co.jp 【緑化用資材の輸入もお任せ下さい】